



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)麗澤大学新学部設置に伴うキャンパス再整備計画	階数	地上4F
建設地	千葉県市川市(仮称)麗澤大学新学部設置に伴うキャンパス再整備計画	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法第22条地域	平均居住人員	1,210 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,200 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2024年2月1日
敷地面積	57,361 m ²	作成者	丸野道明
建築面積	2,507 m ²	確認日	2024年2月1日
延床面積	7,291 m ²	確認者	丸野道明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

①参照値 100%
②建築物の取組み 62%
③上記+②以外の 62%
④上記+ 62%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
高い外皮性能と高効率設備の採用により、「快適性」と「省エネ・環境負荷低減」を両立する設計としている。新たに建設する校舎は既存のキャンパスデザインと調和を図りながら、併せて新たなキャンパスの顔として外構の整備を行う。		雨水浸透装置であるレインガーデンにより地域への雨水流出を抑制しつつ、湿性植物や草本類の植栽・周囲の芝生の管理頻度のコントロールにより生物の生息環境を整備し、地域の生物多様性向上に寄与するよう配慮した。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
各室内用途に合わせて、適切な空調・照明計画を行っている。開口部は全面的にLow-E複層ガラスを採用し、熱負荷低減を図っている。仕上材は下地とも、全面的にF☆☆☆☆を使用している。	天高、階高にゆとりがあり、利用者にとって広く感じる空間になるよう努めている。利用者の多い1・2階は大きな開口を設けることで、緑の多いキャンパス環境を施設内部にも取り込む計画としている。	新たなキャンパスの顔づくりとして、豊かな緑ある大学の景観との調和を図っている。建物は大学内既存建物と高さ・色彩を合わせる他、アスファルト舗装であった北門付近はキャンパスの南・西側と合わせて緑化を行う。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能を高め、高効率設備を採用することで、建築物の運用時エネルギー消費量の低減を図っている。3・4階吹抜け上部にはハイサイドライトを設け、屋光利用・重力換気による自然エネルギー活用も計画している。	エコマーク建材や節水型器具の採用により、資源の有効利用に努めている他、LGS下地、可動間仕切を採用し、資源の再利用にも配慮している。またGWPの低い断熱材の採用等、汚染物質含有材料の仕様を回避している。	敷地境界から適切な離隔の確保、敷地境界の現状地盤レベルの維持に努め、近隣への圧迫感を軽減するよう計画している。北門付近は一部歩道をセットバックすることで歩行者空間にゆとりをもたせ、近隣へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

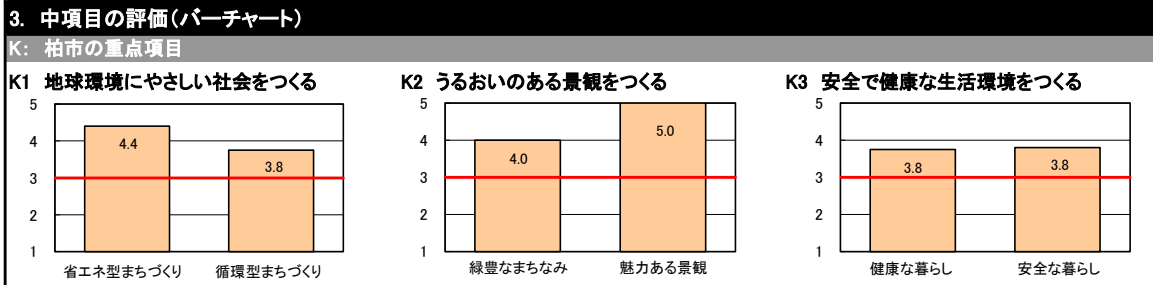


評価結果

■使用評価マニュアルASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1 建物概要			
建物名称	(仮称)麗澤大学新学部設置に伴うキャンパス再整備計画	建築物の環境効率 (BEEランク)	S ★★★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	取組み度 ※ (得点/満点)	評価結果	
K1 地球環境にやさしい社会をつくる	4.0 / 5.0	すばらしい	
K2 うるおいのある景観をつくる	4.5 / 5.0	すばらしい	
K3 安全で健康な生活環境をつくる	3.7 / 5.0	ふつう	
※ 対応するCASBEEのスコアと主な指標を元に、独自に設定された条件で評価をします。(左記は評価結果の凡例)	すばらしい 4点以上	ふつう 3点以上	がんばろう 3点未満



4. 設計上の配慮事項	
<p>K1 地球環境にやさしい社会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性能を高めて省エネ型まちづくりに配慮する 廃棄物保管スペースの確保や分別回収容器の設置により循環型まちづくりに配慮する 	<p>スコアシート</p> <ol style="list-style-type: none"> 省エネ型まちづくり <ul style="list-style-type: none"> 1.1 建物の熱負荷抑制(LR1-1) スコア 5.0 1.2 自然エネルギーの利用(LR1-2) スコア 4.0 1.3 設備システムの高効率化(LR1-3) スコア 5.0 1.4 効率的な運用(LR1-4) スコア 3.0 循環型まちづくり <ul style="list-style-type: none"> 2.1 雨水利用・雑排水再利用(LR2-1.1) スコア 3.0 2.2 雨水排水負荷抑制(LR3-2.3.1) スコア 4.0 2.3 非再生性資源の使用量削減(LR2-2) スコア 4.0 2.4 廃棄物処理負荷抑制(LR3-2.3.4) スコア 4.0
<p>K2 うるおいのある景観をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑地を可能な限り豊富に設け敷地内のみどり豊かなまちなみに配慮する 緑地による良好な景観を形成することで魅力ある景観に配慮する 	<p>スコアシート</p> <ol style="list-style-type: none"> 緑豊かなまちなみ <ul style="list-style-type: none"> 1.1 生物資源の保全と創出(Q3-1) スコア 4.0 魅力ある景観 <ul style="list-style-type: none"> 2.1 まちなみ・景観への配慮(Q3-2) スコア 5.0 2.2 水空間の創出 スコア - 2.3 道路沿いの緑化 スコア -
<p>K3 安全で健康な生活環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> バリアフリー新法の円滑化基準を満足することにより、健康な暮らしに配慮する 	<p>スコアシート</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康な暮らし <ul style="list-style-type: none"> 1.1 空気質環境(Q1-4) スコア 4.5 1.2 バリアフリー計画(Q2-1.1.3) スコア 3.0 安全な暮らし <ul style="list-style-type: none"> 2.1 耐震・免震(Q2-2.1) スコア 3.8 2.2 防犯対策 スコア -